



ご使用前に必ず説明書をご覧ください。

05-05-3209

55mmミディウムDNスピードメーター

12V汎用品

本書は単品販売品と車種別スピード&タコメーター
2連キット共通説明書になります。
本書に記載の構成内容、取り付け方法は単品販売の
ものであり、2連キットとは異なります。

MDN S2 KIT

55mm MEDIUM DN SPEED instruction manual

- ① まえがき
- ② ご使用上の注意点
- ③ キット内容
- ④ メーター本体の取り付け
- ⑤ 配線接続
 - ⑤-1 配線概要
 - ⑤-2 電源接続
 - ⑤-3 ガソリン計入力
- ⑥ 操作方法
 - ⑥-1 表示機能の一覧
 - ⑥-2 表示機能の切り替え
 - ⑥-3 メーター設定の変更 (ADJモード)

Produced by SPECIAL PARTS TAKEGAWA

この度は、弊社製品をお買上げ頂き有難うございます。

ご使用につきましては、下記内容をご理解の上ご使用下さいますようお願い申し上げます。

取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

○取り付けの際には、工具等を準備し、取付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。尚、この取扱説明書は基本的な技能や知識を持った方を対象としております。取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へご依頼されることをお勧め致します。

○当製品使用中に発生した事故、怪我、物品の破損等に関しても如何なる場合においても弊社は賠償の責任を一切負いかねます。

○当製品を取り付け使用し、当製品以外に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。

○他社製品との組合せは保証対象外になりますのでご遠慮願います。

○製品を加工等された場合は保証の対象にはなりません。

○車の走行距離が短い場合等、車両のバッテリーに十分な充電が行われない場合こまめにバッテリーの充電を行って下さい。

又、保管期間がある場合は、バッテリーマイナス端子を取り外しこまめに充電を行うか、弊社製バッテリーチャージャーで充電を行って下さい。（待機電流でバッテリー上がりの原因になります。）

○性能、デザイン、価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。

○クレームについては、材料及び、加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買上げ後1ヶ月以内を限度として修理又は交換させていただきますが、工賃その他費用は対象となりません。

○この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいますようお願い致します。



注意

この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

○作業を行う際は、必ず冷間時（エンジンやマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）

○作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品破損・ケガの原因となります。）

○製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）



警告

この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

○技術、知識のない方は、作業を行わない下さい。

（技術、知識不足等による作業ミスで、部品破損により、事故につながる恐れがあります。）

○作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。

（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）

○点検、整備を行った際、損傷部品が見つかった場合、その部品を再使用せず損傷部品の交換を行ってください。

（そのまま使用すると、部品破損により、事故につながる恐れがあります。）

○エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉したような場所では、エンジンを始動しないで下さい。（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）

○走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みの有無を確認し、緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。（部品の脱落等で、事故につながる恐れがあります。）

○走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。

（事故につながる恐れがあります。）

○点検や整備を行う際は、当取扱説明書やサービスマニュアル等に記載されている、要領、手順に従ってください。

（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）

○指定した部品以外の部品使用は、一切行わないで下さい。（部品破損により事故につながる恐れがあります。）

○気化したガソリンの滞留は危険性が有る為、通気の良い場所で作業を行ってください。

② ご使用上の注意点

[ヘッドライトOFFでの走行禁止 / 保安部品を外したレース用車両]

ヘッドライト常時点灯車を安易な改造（断線させるだけ）によりライトOFF状態にして走行すると、消費されない電力が車体全体の電圧を上げてしまいます。そのまま走行を続けると、過充電によるバッテリーの劣化や過度の負担により純正レギュレーターが故障してしまう可能性があります。ノーマルよりも高いエンジン回転数で走行するエンジン改造車では、悪影響がより強くなります。ヘッドライトが球切れしてしまった場合は、直ちに走行を止めるか、どうしても走行する必要がある場合はハイビームに切り替えて（光軸も調整して）下さい。この時、なるべく低回転で走行して下さい。レース用車両ですべての保安部品を外すには、専門的な知識と代替部品や追加部品が必要となります。

- H.I.D.キットには品質によりバラスト/インバーター（電圧変換装置）からデジタル回路に悪影響を与える高電圧ノイズが出る製品が多くあり、程度によってはメーター故障の原因となりますので、取り付けしないで下さい。



- 社外品の点火装置及び、イグニッションコイルやプラグコード、レーシングプラグ（抵抗無しタイプ）は悪影響ノイズの増大により、故障の原因となる可能性がありますので、取り付けしないで下さい。また、点火系部品の劣化も点火ノイズ増大に関係します。

- 社外品の発電装置は充電力不足によるバッテリー電圧の低下、制御電圧の不具合により故障の原因となる可能性がありますので取り付けしないで下さい。

◎炎天下での放置にご注意下さい。

長期、野外にバイクを置く場合はカバー等をかけてください。

炎天下の中など、過酷な条件下で長期放置しますと、樹脂やゴム製部品の劣化や変形の恐れがあります。

◎本製品は完全防水ではありません。

防滴構造ですので雨などの通常の水濡れ程度では内部に水は入りませんが、完全防水ではありませんので水の中に浸すとすると水が浸入してしまいます。万が一本体に水が入ってしまった場合は直ちに使用を止めて下さい。

また、湿度が高い時、急激な温度変化があった場合などに本体が湿気を吸い込み、パネル内面に曇りが発生する可能性があります。

◎激しい衝撃を与えないで下さい。

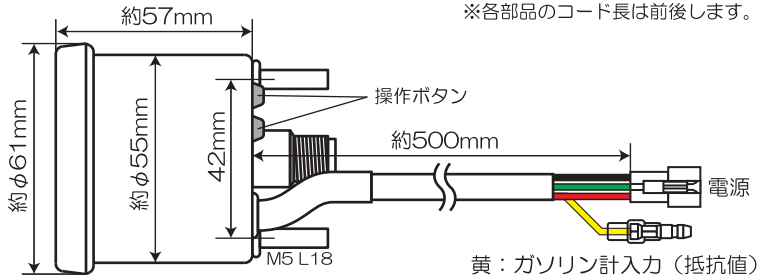
オフロード走行やジャンプ、ウイリーなど、メーターに強い衝撃を与える行為は行わないで下さい。

衝撃によっては内部部品の欠落、ボディの損傷の恐れがあります。

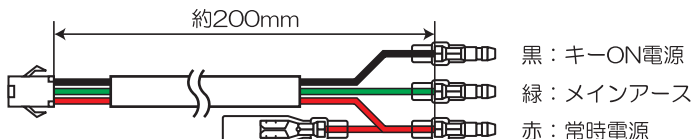
③ キット内容

次ページに続く

①メーター本体



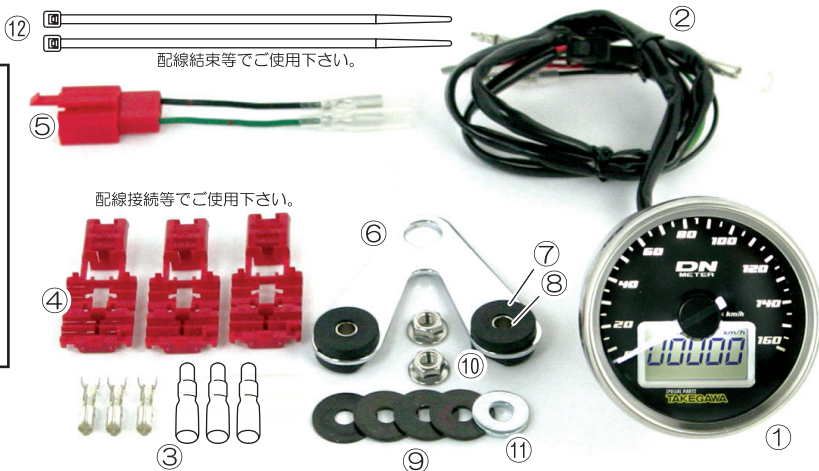
②電源サブコード



③ キット内容

前ページの続き P4

本書は単品販売品と車種別スピード&タコメーター2連キット共通説明書になります。本書に記載の構成内容、取り付け方法は単品販売のものであり、2連キットとは異なります。



番号	部品名	個数	リペア品番	入数
1	メーター本体	1	-	-
2	電源サブコード (3Pコネクター)	1	00-05-0149 (注)	1
3	メスギボシセット	3	-	-
4	エレクトロタップ	3	00-05-0015	5
5	FIモーター・FIEイブ用サブコード	1	00-05-0110	1
6	メーターステー	1	-	-
7	クッションラバー	2	-	-
8	クッションカラー	2	-	-
9	大径ワッシャー M5用 (5X18X1)	4	00-00-0273	10
10	ナットM5	2	-	-
11	大径ワッシャー M6用 (6X16X1.6)	1	00-00-0227	10
12	タイラップ	2	-	-

リペア品番の記載の無い部品については弊社までお問合せ下さい。

(注) 電源サブコードのリペア品は、キット付属のコードと多少形状が異なります。

⑤-2 電源接続

④ メーター本体の取り付け

④ メーター本体の取り付け

次ページに続く



警告

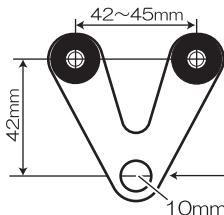
取り付けを誤ると、ボルトおよびナットの破損、脱落等で事故につながる恐れがあります。

本製品は車種別ボルトオン設計品ではありません。取り付けにはステー類の加工やバイク側の加工、工夫が必要になります。

メーターステーの取り付け

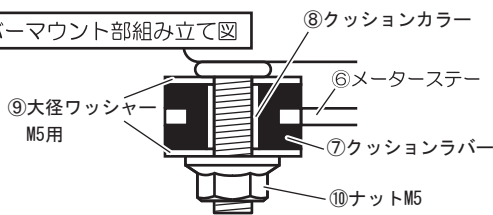
スピードメーターケーブルの長さにあ余裕のある位置にメーター本体を固定して下さい。

- 固定用の穴はM10サイズのネジが通るようになっています。ハンドルクラмпなど見やすい場所に走行中外れたりしないようしっかりと固定して下さい。
- ラバーマウント部の組み立ては右下の図を参考にして下さい。



⑪大径ワッシャー M6用
M6サイズのネジで固定する時は使用して下さい。

ラバーマウント部組み立て図



スピードメーターケーブルの接続

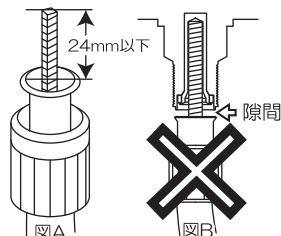
- ・メーターケーブルが接続部の奥まで差し込めた事を確認してから、ケーブルロックナットを締めて下さい。
- ・走行中にケーブルの接続が外れないようブライヤーなどを使いしっかりと取り付けて下さい。取り付け後も緩みが無いが定期的に点検して下さい。

⚠ 注意

本製品はJIS規格に基いたケーブル差込部形状を採用しておりますが、輸入車及び一部国産車ではケーブル加工が必要な場合があります。

ケーブルアウターからのケーブルの飛び出し量を測って下さい(図A)。24mmを超える場合はその部分をカットして下さい。

図Bのように底つきし、上に押し上げた状態で使用されますと回転部が激しく磨耗してしまい、正確な速度を認識出来なくなってしまいます。



速度誤差の補正について

- ・国内車両はJIS規格によりケーブル回転数が1400rpm時60km/h(=ケーブル1回転あたり714mm進行)と定められており、本製品はこの値を100%とし50%~210%の範囲で補正できます。
- ・値を増やすと表示速度が上がり、減らすと表示速度が下がります。例)タイヤが5%大きくなったら設定値は105%

補正不要

- ノーマルタイヤ、ノーマルメーターギアを使用している場合
- ホイールのインチ変更において、そのホイール用のメーターギアをセットで使用する場合

補正必要

- メーターギアはノーマルを使用しながら、タイヤ周長がノーマルから変化した場合

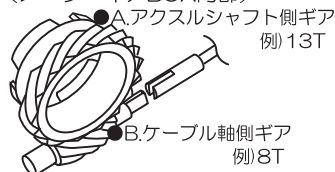
現在使用しているメーターギアとタイヤ周長から割り出す方法

- 1.メーターギアを分解してギア山数を数えます。
- 2.ギア山数から[C.標準タイヤ周長 (mm)]を算出します。

$$\frac{\text{A} \quad \text{アクスルシャフト側}}{\div \quad \text{B} \quad \text{ケーブル軸側}} \times 714 = \text{C} \quad \text{標準タイヤ周長}$$

例) 13(T) ÷ 8(T) × 714 ≒ 1160(mm)

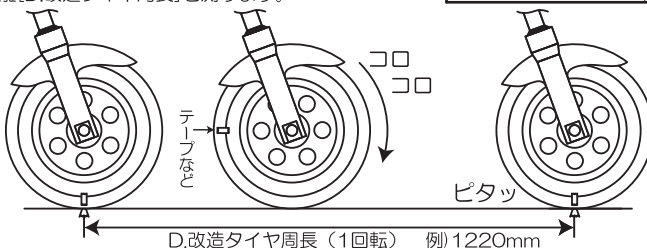
(メーターギアBOX内部)



⚠ 注意

※分解時に破損の恐れがあります。
十分に気を付けて作業を行って下さい。

- 3.テープなどでタイヤと地面に印を付け、改造タイヤを1回転させてその距離[D.改造タイヤ周長]を測ります。



- 4.[C.標準タイヤ周長]と[D.改造タイヤ周長]から速度[補正值]を割り出します。

$$\frac{\text{D} \quad \text{改造タイヤ周長}}{\div \quad \text{C} \quad \text{標準タイヤ周長}} \times 100 = \text{補正值 (\%)}$$

例) 1220(mm) ÷ 1160(mm) × 100 ≒ 105(%)

メーターギア ボックス種類	モンキー ノーマル	武川 10インチ用
A.アクスルシャフト側	13T	17T
B.ケーブル軸側	8T	9T
C.標準タイヤ周長	1160mm	1349mm

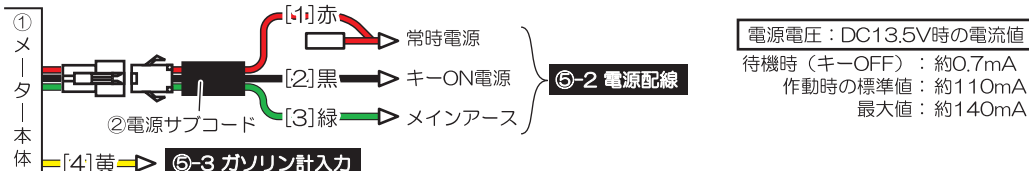
関連ページ

⑥-3 メーター設定の変更

1 速度誤差補正

範囲：050~210% (単位：1%)
JIS標準値：100%

⑤-1 配線概要



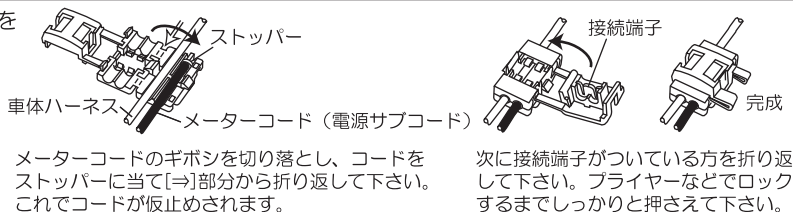
No.	配線色	バッテリー付き車	バッテリーレス車	No.	Color	Function
[1]	赤	DC12V入力（常時電源）	AC12V入力	[1]	Red	Battery (DC12V)
[2]	黒	DC12V入力（キーON電源）	AC12V入力	[2]	Black	Ignition-SW on (DC12V)
[3]	緑	メインアース	メインアース	[3]	Green	Main GND
[4]	黄	ガソリン計入力（抵抗値）		[4]	Yellow	Fuel Signal Input (ohm)

〔メーター本体〕

- 本製品はバッテリーのDC12V（直流）、AC12V（交流）どちらでも作動可能な回路を備えており、バッテリーレス車でも使用できます。 許容電圧範囲：DC8V～18V、AC9V～20V
- ※最低電圧付近では液晶文字濃度やバックライトが薄くなります。

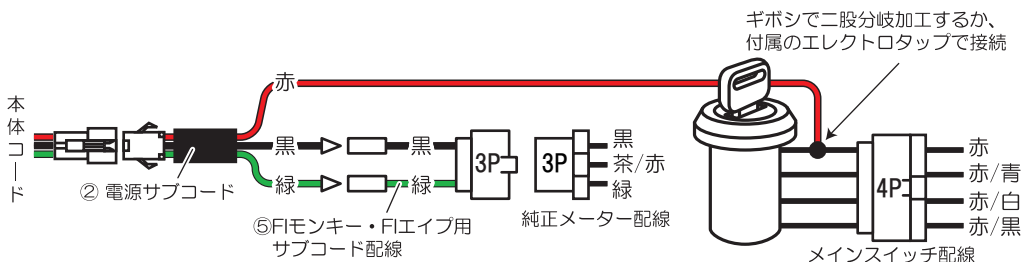
- 記録維持は内蔵電池を必要としないフラッシュメモリー式で、長期間の常時電源OFFでも各種記録は維持されます。

エレクトロタップを使った分岐接続



モンキーFI・エイプFI配線

- ・ノーマルメーターが接続されていた3Pカプラーに本製品付属のサブコードを接続し、メーターの黒コード（キーON電源）と緑コード（アース）を接続して下さい。
- ・メーターの赤コード（常時電源）は、メインスイッチに接続されている赤コードに接続して下さい。

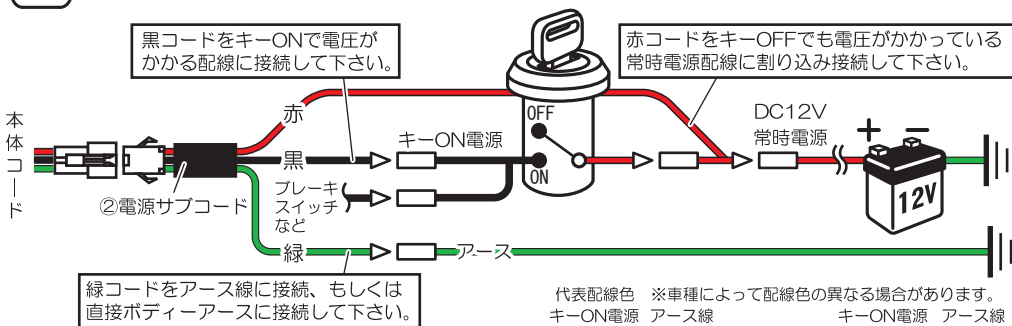


下図はミニバイク等で多い基本的な配線の参考図です。バイクにより接続部品や配線色が異なります。メーター側各配線の意味を理解した上で車体メーカー発行の配線図とよく照らし合わせ、正しく配線を接続して下さい。

メーター側の配線はホンダギボシサイズ（φ3.5）になっています。車体側にちょうど良い接続箇所が無い場合は付属のギボシ端子を使用して接続して下さい。

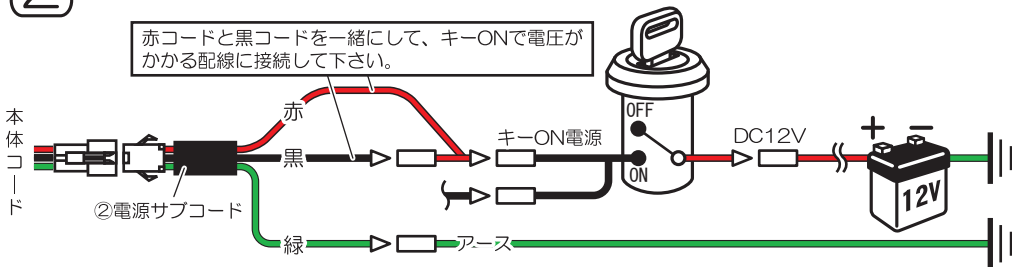
配線 1 DC12Vバッテリー付車・キーON電源+常時電源接続（待機電力あり・全機能使用可）

全ての機能を使用出来ます。キーOFFの間、約0.7mAの待機電力を消費します。



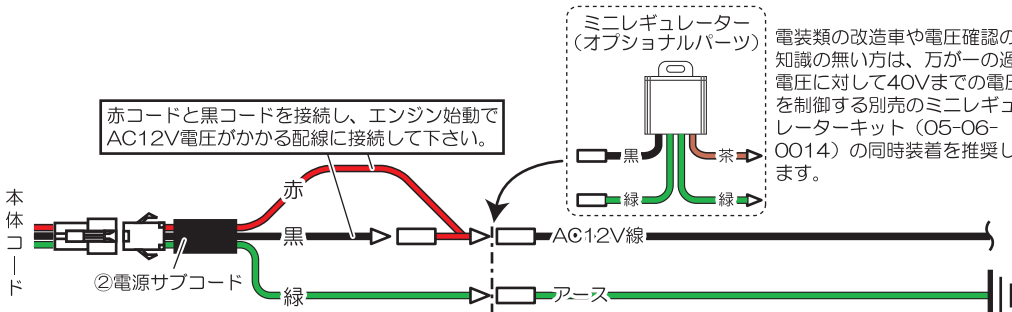
配線 2 DC12Vバッテリー付車・キーON電源のみ接続（待機電力なし・使用不可な機能あり）

時計機能を使用できません。常時電源利用よりも起動までの時間が長くなります。



配線 3 バッテリーレス車・AC12V灯火用電源に接続（使用不可な機能あり）

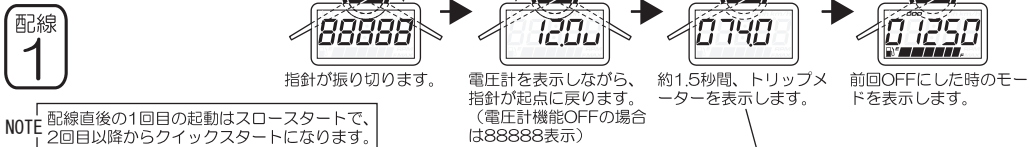
時計と電圧計の機能を使用できません。エンジンの始動性が悪い時など、不安定な電圧が続くと一時的に指針の起点がずれてしまう可能性があります。再起動時に自動的に補正されます。



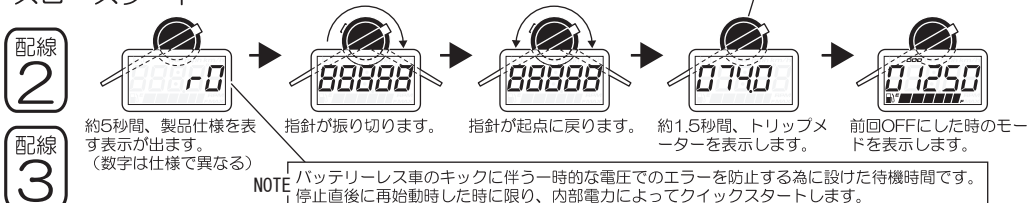
次ページに続く→

前ページ記載の配線接続方法 ① ② ③ により、起動のスピードと表示内容が異なります。

クイックスタート



スロースタート



DC12Vバッテリー電源接続の注意点

[接続上の注意]

- ※キーONだけで電源が入らない場合はバッテリーの劣化もしくは誤配線が原因です。
- ※完全に劣化しているバッテリーを使うと、高回転時、逆に高電圧になるばかりか、過度の負担により純正レギュレーターが故障してしまう可能性があります。
- ※常時点灯車でヘッドライトを消すと電装類のバランスが崩れ、高電圧の原因になる可能性がありますのでご注意ください。

[DC電源とは]

- ＝直流電源。キーON（エンジン停止状態）時からエンジン移動中まで比較的電圧が安定しているバッテリー電源です。車体仕様差はありますが一般的なテスターで電圧を測定すると、キーON時12.5～13V前後、走行中は～14.5V前後となります。
- ※バッテリー付き車でも、エンジン始動に伴い電圧の発生する配線（ヘッドライトや尾灯に多い）はAC電源となります。

[アドバイス]

- ・エンジンを停止状態でブレーキランプを点け、さらにウインカーを点けて下さい。点滅速度が異常であればバッテリーが弱っています。

バッテリーレス車・AC12V灯火用電源接続の注意点

[接続上の注意]

- ※エンジン回転数やヘッドライトなど他の電装類の状況により電圧が変動する不安定な電源です。電装類の改造車や電圧確認の知識の無い方は、万が一の過電圧に対して40Vまでの電圧を制御する別売のミニレギュレーターキット（05-06-0014）の同時装着を推奨します。
- ※常時点灯車でヘッドライトを消すと電装類のバランスが崩れ、高電圧の原因になる可能性がありますのでご注意ください。

[AC電源とは]

- ＝交流電源。エンジン始動に伴い電圧が発生し、回転数により電圧が変動する不安定な電源です。車体仕様差はありますが、いくつかの不安要素（高回転時の高電圧や、低回転時の電圧不足など）を伴っています。電圧や周波数、波形が安定していないので、**一般的なテスターでは正確な電圧を測定出来ません。**ほとんどのバッテリーレス車の電装はすべてAC電源です。



注意

他社製アウターローター等の発電装置は、発電電力不足や制御電圧の違いにより、メーターが正しく動作しない原因となります。
純正品もしくは当社製アウターローターをご使用下さい。

下図はミニバイク等で多い基本的な配線の参考図です。バイクにより接続部品や配線色が異なります。メーター側各配線の意味を理解した上で車体メーカー発行の配線図とよく照らし合わせ、正しく配線を接続して下さい。

フューエルユニット（ガソリンセンサー）接続

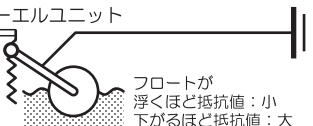
- もともとガソリン計が装備されているバイクで、フューエルユニットの満タン時とガス欠時の[抵抗値]が本製品と合えばご使用頂けます。
 - 主にHONDA車対応の510ΩとYAMAHA、SUZUKI車対応の100Ω、2種類の[抵抗値]を選択できます。
- ※メーター及びセンサーの仕組み上、バイクによってはガソリン満タン時に値が最大値まで上がり難い事があります。

本体
コード



抵抗値：510Ω又は100Ω

フューエルユニット



フロートが
浮くほど抵抗値：小
下がるほど抵抗値：大

黄コードをガソリン残量によって抵抗値の変化する配線に接続して下さい。

抵抗値ごとのメーター表示目盛数

↑満タン
(F)

表示	100Ωタイプ	510Ωタイプ
6	～約14Ω	～約67Ω
5	約15～約30Ω	約68 ～約147Ω
4	約31～約44Ω	約148～約225Ω
3	約45～約60Ω	約226～約305Ω
2	約61～約76Ω	約306～約380Ω
1	約77～約90Ω	約381～約462Ω
0	約91～	約462～

↓ガス欠
(E)



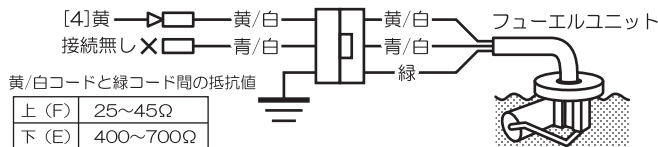
注意

黄コードの接続が断線すると、ガソリン計の表示が完全に消えます。

同一メーカーでも車種別で配線色の異なる場合があります

HONDA車の例

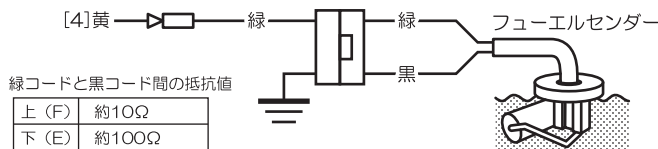
一部HONDA車で100Ωタイプが採用されています。（当社確認車はジャイロXの一部年式・Dio110）



関連ページ **⑥-3 メーター設定の変更**

ガソリン計設定：510Ω

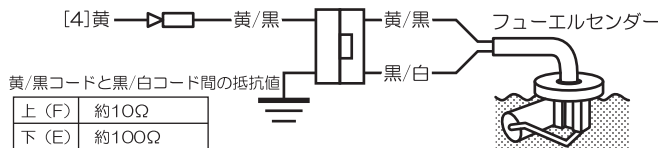
YAMAHA車の例



関連ページ **⑥-3 メーター設定の変更**

ガソリン計設定：100Ω

SUZUKI車の例



関連ページ **⑥-3 メーター設定の変更**

ガソリン計設定：100Ω

⑥-1 表示機能の一覧



本体背面に操作用ボタンが2つあります。文字盤面から見て、左側が「L」ボタン、右側が「R」ボタンです。



表示機能の切り替え

日常的な操作は「L」ボタンだけで行えます。ボタンの短押しで表示機能の切り替え、長押しで記録※をリセットします。

※トリップメーター、トリップタイマー、平均速度計、最高記録

関連ページ

スピードメーター	DNモーター駆動。～160km/h。ほとんどの国内バイクに対応するJISケーブル仕様。速度誤差補正機能付き。設定範囲：50～210%	④
オドメーター	～99999km（1km単位）。ユーザーオドメーター機能付き。	
トリップメーター	～999.9km（100m単位）。Lボタン長押しでリセット。確認用にメーター起動時に1.5秒間自動表示します。	
時計	24時間表示。Lボタン長押しで時計合わせ。常時電源（DC12V）接続必要。メニューOFF可能。	
トリップタイマー	～99時間59分（1分単位）、100時間～9999時間（1.時間単位）。Lボタン長押しでリセット。メニューOFF可能。	
平均速度計	2～160km/h（1km/h単位）。下限速度設定機能付き。Lボタン長押しでリセット。メニューOFF可能。	
電圧計	DC8～18V（0.1V単位、誤差±0.2V）。メニューOFF可能。AC電圧は測れません。確認用にメーター起動時に1.5秒間自動表示します。	
最高記録	速度と電圧の最高値を記録。Lボタン長押しでリセット。	
ガソリン計	0～6ステップ（7段階）。100/510Ω切り替え可能。メニューOFF可能。	⑤-3
高耐久電源回路	DC12V、AC12V両対応。電圧範囲：DC8V～18V、AC9V～20V DC13.5V時の電流値、待機：約0.7mA、作動標準：約110mA、最大：約140mA	⑤-1～2

メニューOFF設定

取り付ける車種によっては使えない機能や、お客様によっては不要と思う機能を隠す事が出来ます。対応の機能は「時計」「トリップタイマー」「平均速度計」「電圧計」「ガソリン計」の5つです。メニューOFF設定はADJモードで行います。

例1) バッテリーレス車は時計と電圧計が使えないので、これらをメニューOFFに設定。

例2) タコメーター側に時計があるので、スピードメーターの時計をメニューOFFに設定。

関連ページ

⑥-3 メーター設定の変更

例1



1 オドメーター

範囲：～99999km（単位：1km）

消去できない走行距離計ですが、ADJモードにて起
点の走行距離（ユーザーオド）を設定できます。



次へ

2 トリップメーター

範囲：～999.9km（単位：100m）

消去できる走行距離計です。



リセット

次へ

3 時計（メニューOFF可能）

24時間表示。端数処理機能付き。

常時電源への接続が必要な為、バッテリーレス車な
どのAC(交流)電源では使用できません。ADJモード
にてメニューOFF設定してください。



次へ

4 トリップタイマー（メニューOFF可能）

範囲：～99時間59分（単位：1分）

：100時間～9999時間（単位：1時間）

トリップタイマーとは走行時間を計測する機能です。
走行に連動し積算をスタートし、停車に連動し積算
をストップします。

タイマー移動中は「：」が点滅します。



次へ

a=Aベレージの略

5 平均速度計（メニューOFF可能）

範囲：2～160km/h（単位：1km/h）

計算範囲の下限をADJモードにて調整できます。
例えば下限を4km/hとすると、4km/h未満での走行
及び停止中の時間を計算に含めなくなります。
計算中は「km/h」が点滅します。



次へ

6 電圧計（メニューOFF可能）

範囲：DC8～18V（単位：0.1V、誤差±0.2V）

バッテリーレス車などのAC(交流)電源では使用でき
ず、不正確な値を表示します。

ADJモードにてメニューOFF設定してください。



次へ

7 最高記録（交互表示）

範囲：0～160km/h（単位：1km/h）

範囲：DC8～18V（単位：0.1V）

速度と電圧の最高記録を交互に切り替え表示します。



次へ



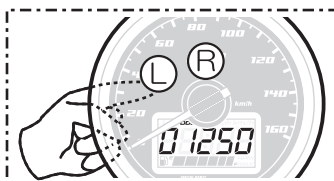
リセット

オドメーターに戻る

次ページ

⑥-3 メーター設定の変更

各種設定の変更（ADJモードに入る）



本体背面に操作ボタンが2つあります。
文字盤面から見て、左側が「L」ボタン、
右側が「R」ボタンです。

短押し

長押し（3秒以上）

時計合わせは、時計表示中に
Lボタン長押しで、設定モードになります。

値変更 次へ

100時間までは1分単位

例) 75時間25分

100時間を超えると1時間単位

例) 112時間00分～59分

75:25
 0112H

約1秒ほど現在の下限設定値を表示し、
その後、平均速度を表示します。

リセット



L3
オドメーターモードで「L」ボタンを
長押しするとADJモードに入ります。

ADJモード内で30秒間の操作無し、
もしくは**L3**でオドメーターに戻ります。

1 速度誤差補正

範囲：050～210%（単位：1%）
JIS標準値：100%

ホイール/タイヤ/メーターギアがノーマルであれば、100%が標準値となります。



次へ **L** **R** 値変更

関連ページ

④ メーター本体の取り付け

2 時計のメニューON/OFF

範囲：ON、OFF

他に時計を装備している方はOFFにしてください。
バッテリーレス車の方はOFFにしてください。
時計合わせは、通常画面の[時計]で行います。



C=クロックの略

次へ **L** **R** 値変更

3 トリップタイマーのメニューON/OFF

範囲：ON、OFF

バッテリーレス車でも使用可能です。



T=タイマーの略

次へ **L** **R** 値変更



4 平均速度計の下限速度とメニューOFF

範囲：2～100km/h（単位：2km/h）、OFF

計算範囲の下限速度を入力、もしくはメニューOFF
を選択します。
「100km/h」の次に「OFF」が出ます。



A=アベレージの略

次へ **L** **R** 値変更

例えば下限を4km/hとすると、
4km/h未満での走行及び停止中の時間を
平均速度の計算に含めなくなります。

5 電圧計のメニューON/OFF

範囲：ON、OFF

他に電圧計を装備している方はOFFにしてください。
バッテリーレス車の方はOFFにしてください。



V=ボルトの略

次へ **L** **R** 値変更

6 ガソリン計の抵抗値とメニューOFF

範囲：510Ω、100Ω、OFF

スクーターなどガソリンセンサーのあるバイク
のみ対応です。



F=フュエルの略

次へ **L** **R** 値変更

関連ページ

⑥-3 ガソリン計入力

7 ユーザーオドメーター

範囲：00000～99999km（単位：1km）

通常画面でのオドメーターの距離を任意値に変
える事が出来ます。
このメーター使用後からの総走行距離（メー
ターオド）も確認できます（右図750km）。
※メーターオドは、設定やりセットできません。



メーターオドを
1.5秒間表示



次へ **L** **R** 値変更

オドメーターに戻る